

交換留学報告書

* この報告書に記載される内容は多文化社会学部のウェブサイト等に記載いたしますので、予めご了承ください。

氏名	藤田 佑	学年(渡航時)	3年次
派遣先大学	Oxford Brookes University		
国・地域	英国		
派遣期間	2024	年 09 月 ~	2025 年 05 月

履修科目

1 学期目	
履修科目	授業内容
Family, Kinship and Society (ANTH4005)	親族関係の分析から社会人類学を学んでいく授業。 民族誌学を通し、どのような人類的・社会的グループ分けが、どのような状況下で衰退や繁栄、そして組織化・概念化をしてきたのか、ケーススタディを通して学ぶ。
Communication for Justice (CMC5005)	文化アイデンティティとコミュニケーションの批判理論的かつ、哲学的な分析・概念化を通して、学生自らの文化やそれに関するステレオタイプなどの規範的枠組みを批判的に紐解いていく授業。
Social Differences and Divisions (SOCI4001)	社会学における基本的な概念や知識、様々な分析方法とそのメリット・デメリットなどを学ぶ。また、個人とグループ、社会制度の関係性に焦点を当て、現代の様々な課題を分析していく授業
Gender and Society (SOCI5006)	「ジェンダー」に焦点を当て、現代における性形成を、多様な理論的アプローチや研究内容を用いて、理解していくことを目的としている授業。
2 学期目	
履修科目	授業内容
Understanding Culture: Identity, Representation and Power (CMC4004)	文化研究における主要な概念、理論、テーマを学ぶ。歴史的、社会的、政治的背景を考慮しながら、文化や時事問題のさまざまな側面を分析し、批判的に考察することを目的とした授業
Global Challenges in International Relations (INRL4002)	国際関係の基礎的な知識をつけることを目的とした授業。飢餓や人権、生態系の悪化など慢性的な世界的な課題の要因やバックグラウンド、問題点などを批判的かつ、客観的に分析し、政治や地政学などの知識も同時に深めることを目的としている
Tandem Language Learning (JPNS6010)	Independent study module. 英語と日本語のネイティブがそれぞれペアになり、お互いの学習言語の文法やボキャブラリー、文化理解度、コミュニケーションスキルなどを会話やディスカッションを通して磨いていく授業
Global Sociology (SOCI5008)	経済や環境の世界的な変化における、その起源・性質・結果を分析し、探求していく授業。また、その影響と重大さを専門的かつ客観的に分析する

留学レポート(1,500 字以上)

学期は 12 週の授業で構成されて、その中でプレゼンテーションや課題提出、テストがある。(あまり文系の授業では実施されないが、12 週の後に 3 週間ほどのテスト期間でテストを実施することもある)。基本的には課題提出などは、中間と期末の 2 回あり、レポートは 1,000words – 2,000words の範囲だった。文字数を埋めることは比較的簡単ではあるが、参考文献や文中での引用を重視しているので、アカデミックペーパーから自分の意見をサポートできる箇所を正しく抜き出したり、見つけたりする能力が求められると感じた。私が履修した授業は、平均的には 2 時間ほどの授業が多く、前半の Lecture で知識をインプットし、後半の Seminar でケーススタディや生徒同士で行う意見交換やディスカッションによってアウトプットを行うことが多かった。International Students の割合が多いこともあり、多様なバックグラウンドや視点を持った学生との意見交換を踏まえて、自分の思考の幅が広がる感覚が楽しかった。ビザの関係で最低でも学期ごとに 4 つの授業は履修しないといけないので、それを踏まえて留学に行くまでの長崎大学での履修計画を組むことが出来たら、より余裕も持って、自分の興味関心のある分野を加味した授業選択ができる。

履修登録においては、多種多様な学部を跨いで自分の好きな授業を履修することが出来る。基本的には、大学 1 年生と 2 年生に相当する Level4 と Level5 の授業しかとることが出来ないが、春学期に実施される日本語学科の Tandem Language Learning と呼ばれている授業は Level6 でも履修可能。個人的には一番おすすめできる授業だった。上記したように、お互いの学習言語を使い日本語学生に日本語を教えつつ、反対に現地のネイティブの学生に英語を教えてもらう形式。互いに話し合い、興味のある分野や自分のボキャブラリーやディスカッション力を増やしたいピックを週に 1 回話し合い、それを先生に報告する形式なので、自分としては楽しく学習・予習できたし、そこで出来た友達と授業後に仲を深めて人間関係も広げることができた。

オックスフォードがイギリスの比較的南部に位置していることもあり、気候はイギリスの中では安定している方だと感じた。しかし雨や雹が突然降りだしたりするので、普段着でも使えて高性能で使い勝手のよいレインジャケットがあればストレスは少ない。同様に一足、GORE-TEX の防水加工の靴があれば冬の雨が多いシーズンでもストレスなしで生活することが出来る。現地の人は基本、傘をささないのて徐々に傘は使わなくなる。折り畳み傘は小さめでも十分。冬は雨も曇りも多いが、授業が終盤に差し掛かる 5 月にかけて天候も安定し、パンティングやピクニックなども楽しめるので、寮の契約ぎりぎりまで残り、イギリス人も一年のなかで一番おススメする夏を経験すると良い思い出を作ることが出来る。なので、帰りの飛行機はあまり早くとりすぎない方がよい。航空会社は Emirates の留学生割(無料で手荷物+10kg、金額 10%引き)を使用すると出費を抑えることが出来る。

先述した通り、冬は日光を浴びる機会が少ないのでビタミン剤を服用することが、体調維持に不可欠だった。また寮はセントラルヒーティングが壊れることが多々あるので、厚めのデュベを調達することも勧める。必需品関係としてカードは、止められるアクシデントを想定して、2 種類持っていくこと良い。私は日本の銀行に紐づけたデビットカードとクレジットカードを持参し、バイトや割り勘など現地でのお金のやりとりの為のイギリスのオンラインバンキングも作成した(Revolut と Monzo は店舗に行かずにオンラインで簡単に作成できるので使い勝手が良い)。またパブやクラブなどで、フィジカルカードで支払いしていると財布の場所を特定されやすく、すられたり無くなるので、日本に在る間に Apple Pay に追加しておくことを勧める。(日本のカードは、確認の携帯番号が日本の番号の為、海外では Apple Pay に追加する設定が出来ない為)(余談で、旅行や写真で思い出を残すのが好きな人は、少々出費ではあるが、携帯などのカメラを新しくしておく旅行先でのモチベーションが上がるし、思い出も残しやすくなる)

物価は円安による影響で、ほぼ日本の 2 倍だった(留学時 1 円が 198 円ほど)。基本的には自炊をしないと、生活費が嵩んでしまう為、自炊のレパートリーを増やしておくことが無難。寮は複数あるうちから選ぶことが出来るが、申請が遅れてしまうと希望する場所の抽選に落ちてしまうため、早めの申請が必須。他国の寮で生活始めて、最初の壁は水回りだ。キッチンはその寮でも共同だが、風呂とトイレはエンスイートを強く勧める。学校から遠い寮は、朝はバスが来ないこともあるので比較的学校の近い Clive Booth が金銭的にも距離的にも良い。所属したサークルと部活は、Japanese Society(Society は日本でいうサークル) とフットサル部で、日本に興味があり、比較的あちら側からも興味を持って話しかけてくれ友達作りがしやすい Japanese Society と、何か自分の好きなスポーツや分野の部活やサークルに入り、イギリス特有のパブの文化や付き合い方などを肌で経験すると、充実した日々を送ることが出来る。

オックスフォードは歴史が古いこともあり、街並みは最高。一番近い寮からはバスで 10 分程度、徒歩でも 20 分程度でアクセス可能。申請をすれば city center 行のバスなどを無料で使うこともでき、ロンドン行や空港行きのバスも比較的安く購入することが出来る。Oxford Brookes の図書館は 24 時間使用可能なので、課題や作業をする場所は無数にある。しかし申請をすれば、Oxford University のハリーポッターの撮影で使用されているような歴史的な図書館も使用することができ、勉強へのモチベーションにも繋げることができるのでおススメ。

留学中の写真(5枚程度) ※写真のキャプションも入れること



写真 1 大学スポーツ対抗戦のフットサルの部で勝利した際の記念撮影



写真 2 同じ寮に住んでいるウルグアイ人とカナダ人と旅行先のレストランで



写真 3 フットサル部としての活動が終わり、活動締めくくりのディナー



写真 4 留学先で仲が良かった現地のイギリス人6人、日本人4人とのギリシャ旅行



写真 5 現地の友達と大学横の芝生の広場で雑談